

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

1 多面的な観点と課題

(1) いかに持続的な観光地域を実現するか

人口減少が進む中、コロナ感染症の影響もあり観光を目的とした交流人口が減少した。

観光は、学習・社会貢献・地域交流の機会 ① であり、同時に交流人口の拡大につながり、活力に満ちた地域社会の持続可能な発展を可能にする ②。

よって 活力面の観点 ③ から いかに持続的な観光地域を実現するか ④ が課題である。

- ① これらの機会に関する説明がないので、それぞれ説得力に欠けます。
- ② 冒頭の「減少した」という現状とのつながりがなく、背景にまとまりがありません。「減少した」という事実があるなら、減少した場合の悪影響を述べ問題を提起すると良いでしょう。
- ③ どのような立場なのか分かりません。
- ④ これは、問題そのものです。持続可能な観光を実現するための課題を書くのですよ。

(2) いかに財政難の中で対応するか

少子高齢化に加え、労働人口の減少による 税収不足 ⑥ と 社会保障費の増大 により 財政難が続く ⑦。

そのため観光にかかる 予算が確保できず ⑧、十分な対応 ⑨ ができないことが懸念される。

よって コスト面の観点からいかに財政難の中で 観光環境整備を行うか ⑩ が課題である。 ⑪

令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

- ⑥ 税金不足とは何を言いたいのでしょうか。歳出に対して、支出が足りないということですかね。そうであるなら、税金不足との表現は適切でないですね。また、税金は増加しています。
- ⑦ 社会保障費のみが歳出増の原因であるように見えます。一要因に過ぎません。
- ⑧ この表現ですと全く予算化できないように見えてしまいます。十分でないといった表現にしましょう。
- ⑨ 抽象的で問題が明確になっていません。
- ⑩ 環境整備が必要な背景がなく、唐突感があります。
- ⑪ 全体的にまとまりがなく、バラバラな印象を受けます。前後の文脈（つながり）を意識して書きましょう。例えば、観光客減少（起 現状）→客が減ると地域活力が喪失（承 持続可能性を示唆）→客を増やすためにはニーズにあった環境を提供（転 課題を誘導する必要性）→持続可能性の観点から環境整備が課題（結 結論）といった流れ（起承転結）を作ると文脈が通ります。

(3) いかに少ない人数で観光対応を行うか

少子高齢化により、観光における人材不足は深刻さを増す。特に観光産業のデジタル化の遅れに象徴される生産性の低さや人材不足といった構造的課題⑫が、コロナ禍で一層顕在化⑬した。

よって人材面の観点からいかに少ない人数で観光対応⑭を行うかが課題である。

- ⑫ 生産性の低さや人材不足は問題点です。課題とは、目標と現状とのギャップである問題を解決するために、具体的に取る行動のことです。また、構造的といった表現も違和感があります。観光産業の仕組みが起因している問題ではないのでしょうか。
- ⑬ 指摘の問題点は、コロナという要因は関係ないではありませんか。
- ⑭ 対応とはなんですか。抽象的で、課題が明確になっていません。

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

2 最も重要な課題

地域社会・経済に好循環をもたらす効果が最も高いのは(1)であるため⑮、(1)の「いかに持続的な観光地域を実現するか」を最も重要な課題に選定し以下に解決策を述べる。

⑮ 「効果が最も高い」と「最も重要な」は類似していますので、「・・・好循環をもたらすため」としてはいかがでしょうか。ただし、前述の指摘の通り、課題設定が不適切です。

※ 解決策も添削しますが、課題設定が適切でないことを認識したうえで、ご確認ください。

3 解決策

(1) 良好な景観の形成

優れた景観を観光資源として、保全・活用を図るため、その景観を保有する地域の景観計画を策定する⑯。

同計画に基づき、重要文化的景観等の景観の構成要素となる物件の修理・修景が可能となる⑰。また屋外広告物の安全対策⑱や違反広告物の是正対策を行う。

⑯ 冗長的です。→「観光資源となる優れた景観を保全・活用するため、景観計画を策定する。」

⑰ これも分かりづらい表現です。景観の景観要素となっており重複しています。また、可能性ではなくやることを書きましょう。→「重要文化的景観を構成する自然や建築物等の修景を進める。」

⑱ 見出しにある良好な景観形成に資する取り組みにしましょう。

(2) まちなかの回遊性の向上

まちなかの回遊性を向上させるため、「居心地が良く歩きたくなる」空間の形成を図る。

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

具体的には、まちなかウォーカーブル推進事業を導入
し ⑱、道路空間を再構築して、歩行者空間や自転車空
 間を確保する。あわせて、歩行者利便増進道路制度に
 よるオープンテラスやマルシェを行い、観光地の魅力
 を向上させる。

- ⑱ 補助事業名を記載するのではなく、その内容（車中心から人中心の空間に転換するまちなかの歩ける範囲の区域において、街路の広場化や公共空間の芝生化、沿道施設の1階部分の開放など、既存ストックの修復・利活用に関する取組）を書きましょう。
- ⑳ 「賑わいのある道路空間」のさらなる普及に向けて～歩行者利便増進道路制度の創設～歩行者利便増進道路（道路法改正案）と滞在快適性等向上区域（都市再生特別措置法改正案）を併用することで、官民一体で取り組む「居心地が良く歩きたくなる」空間の創出を促進」とありますので、滞在快適性等向上区域を設定することについても触れると良いと思います。

(3) 観光地域づくりのための体制整備

地域のあらゆる資源を観光に活用するため、商工業関係者や文化財管理者など、地域の多様な関係者を巻き込んだ体制：観光地域づくり法人（DMO）を構築
 ⑳ する。体制を構築することにより、マナー違反や混雑
などの住民との課題や地域の課題 ㉑ に 取り組み ㉒
 ことができる。

- ㉑ 観光地域づくり法人は、観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協同しながら、観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人です。よって、関係者を巻き込んだ体制という表現は不適切だと思います。DMOは関係者との調整を行う役割です。

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

② 一括りにして地域課題で良いのではないのでしょうか。

③ →「取り組む」

3 波及効果及び懸念事項

(1) 波及効果 ②④

地域住民が、身の回りにある資源を観光資源として認識することができ、観光を通じて住民が②⑤自らの地域に誇りと愛着を感じることができる。

④ 令和5年度は、波及効果を問われていません。

⑤ 主語は変わっていないので不要。

(2) 懸念事項及びその対応

観光地への旅行者が増加すると、自然災害時における被災リスクの増加が懸念②⑥される。この対応としては、多言語による適切な情報発信等をウェブサイトやSNSで行う。

⑥ 旅行者が増えても、リスクは変わらないではありませんか。被災対象者が増えるということですか。また、対応策が多言語化なので、インバウンドのみが対象になっています。

4 業務として遂行するに当たっての留意点

(1) 技術者倫理の観点

業務にあたっては、解決策で述べた施策に合わせて、誠実かつ十分な知識を持って公衆の安全、健康および福利に努めることに留意する。常に「公衆（国民）」の幸福を大前提に業務を行う必要がある。

令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

(2) 社会の持続可能性の観点

業務にあたっては、常に社会全体における公益を確保し、将来にわたって安全・安心な社会資本ストックを構築して維持し続ける観点を持つ必要がある。

また建設現場での活動は、常にエネルギーを大量消費する。解決策で示す施策により快適性や回遊性を向上させ^⑳、広範な視点を持って可能な限りCO₂発生
の少ない建設分野の工法を進めていく必要がある。

以上

⑳ 建設現場と関係のない話です。文脈を大切にしましょう。